

平成30年度授業改善推進プラン

東村山市立東村山第五中学校 第2学年

教科等	資質・能力	現在の児童・生徒の実態や授業についての分析	授業改善のための具体的な方策【主体的・対話的で深い学び】
国語	知識及び技能	昨年に比べてだいぶ漢字の読み書きの力はついてきたが、まだ小学校レベルの読み書きでつまづいている生徒も多い。語彙も少ない。	漢字の小テスト、再テストは継続し、音読の機会を増やす。辞書を傍らに置いて読書する習慣を身につけさせる。
	思考力, 判断力, 表現力等	一読しただけでは正しく解釈できていない生徒が多い。表現に関しては「話すこと」はある程度の力はあるが、「書くこと」は苦手としている生徒が多い。	読解に関しては、そう思う根拠を言わせ、深く読む習慣をつけさせる。「書く」機会を増やし、抵抗感をなくす。
	学びに向かう力, 人間性等	大部分の生徒の授業態度は真面目である。発言もする。しかし忘れ物が多かったり、宿題をやらなかつたりする生徒もまだ多い。	忘れ物をしない、宿題は家で仕上げるという習慣をつけさせる。グループ討議の機会を増やし、授業に参加している充実感を味わわせる。
社会	知識及び技能	授業で学習した内容を家庭で復習したり、考査前に学習している生徒は概ね知識・技能の定着が図られている。一方教科書が読めない生徒も散在。	①教科書音読指導。②授業で使用しているプリントを必ず記入させ、仕上げる指導を徹底。③考査前・長期休業中の補習も必要に応じて行う。
	思考力, 判断力, 表現力等	社会科学的分析・考察・判断・表現力などはまだ未熟である。	①情報を読み取る力、記述で表現する力を育成する教材を開発・作成する。②学習内容を厳選し、①を実践する授業時間を確保する。
	学びに向かう力, 人間性等	学習内容に対して、関心・意欲のある生徒とそうでない生徒が見られその傾向が学習の成果に明確に反映している。	①学習の必要性を説く。②映像資料の充実・活用。③学習成果を記録させる。
数学	知識及び技能	基礎的な計算が正しく理解できていないため、問題を解いていても正解できない生徒が少なくない。	計算間違いをしたときに、ただ答えを直すのではなく、なぜ間違えたかを考えさせることにより、計算力を身に付けさせていく。
	思考力, 判断力, 表現力等	式を書くことや文章題が苦手である生徒が多い。授業では式を書くことの大切さを話していき、少しでも記述問題に取り組めるようにしていく。	テスト直前で記述の仕方を学んだり、誤答からどこを、なぜ間違えたかを考えることで、自分の考えをまとめたり記述したりすることの習慣をつけさせたい。
	学びに向かう力, 人間性等	数学は苦手であるという生徒が多いが、基礎的な質問を多く発問し、発言カードなどを活用することにより、意欲的に取り組んでいる生徒がいる。	基礎的な計算を正確に取り組むことの大切さを教え、将来にわたり数学を学ぶ上で大切な計算力を身に付けさせていきたい。
理科	知識及び技能	ガスバーナー、電流計などの使い方など基本はおおむね定着している。生徒自ら仮説を立てて実験を行うまでには至っておらず、これからの課題である。	技能テストを設ける、授業の最後にワークに取り組む、小テストを定期的に行うなどして、知識・技能の定着を図りたい。
	思考力, 判断力, 表現力等	科学の考え方が定着している生徒としていない生徒に分かれている。また、身近な現象を科学的に説明する力が不足している。	実験を行うたび繰り返し問いかけ、考え方の定着を図っていく。理由を書き、他の生徒と交流させる場面を増やし表現力を伸ばしたい。
	学びに向かう力, 人間性等	実験・観察に積極的に取り組むことができていく。話し合い活動などにもよく取り組んでいる。一方、自分の考えを持つという意欲が少ない。	授業では考える場面を多く取り入れる。その際、予想と反するような結果がでる実験などを行い、考える意欲を高めていきたい。
音楽	知識及び技能	音階などの基礎が出来ていない生徒が見受けられるが、意欲的に取り組んでいる。	基本をくり返すことで、苦手意識を取り除きたい。
	思考力, 判断力, 表現力等	鑑賞は集中して行うことが出来るが、感じたことを素直に言葉にすることに差がある。	基本を繰り返す場を多く設け粘り強い指導によって成果が出ると期待する。
	学びに向かう力, 人間性等	大多数の生徒は、積極的に学ぼうという姿勢が見受けられる。時間をかけて音取りすることに抵抗がなく、一曲を完成させるのに時間はかかるが、質の高いものをつくりあげることが出来る学年である。	合唱ではクラス全体で声を合わせ、心を通わす喜びを実感させられるように指導していく。もう少し音取りのスピードを上げていく。
美術	知識及び技能	技能において、いかに良い作品に仕上げられるかを考えながら丁寧に作業に取り組んでいるが、知識の部分に関しては考査の結果を見ると、学習している生徒としていない生徒の差がある。	・ICT「書画カメラ」を用いて、実際の作業手順を見せることで視覚的に理解しやすくなるよう心がけている。
	思考力, 判断力, 表現力等	作品の制作に入る前の導入（練習課題）では一緒に作業をし、そこで基礎・基本的な内容について時間をかけて取り組ませているので、図法などの技能は理解できているが、自分のアイデアを形にするのが苦手な生徒が多く、作品完成に向けての時間がかかる。	・作業時の机を班活動の形で行うことで中々作業に取り掛かれない生徒でも友達とアドバイスし合える環境を作っている。
	学びに向かう力, 人間性等	数名、なかなか作業に取り組めない生徒もいるが、全体的に落ち着いてよく取り組んでいる。	授業後の振り返りカードを使い、わからないところは次の授業までに個々に返事を返すことでスムーズに作業に取りかかれるようにしている。
保健体育	知識及び技能	基本的な用語やルールを覚えたり、身につけようとする気持ちがある。保健分野ではノートにきちんと記入したり、問題に取り組む姿勢も見られる。運動経験や体力差など個人差が大きく、特に、苦手な生徒への働きかけが課題である。	ICT機器等を活用し、視覚的にアプローチするとともに、生徒相互の学び合いを促す。ワークや図解体育、学習プリントの有効利用を行う。レポート課題の実施などで、自己の体力的な課題に気付かせる。

平成30年度授業改善推進プラン

東村山市立東村山第五中学校 第2学年

教科等	資質・能力	現在の児童・生徒の実態や授業についての分析	授業改善のための具体的な方策【主体的・対話的で深い学び】
保健体育	思考力, 判断力, 表現力等	学習カード等には、概ねよく考えて記入できているが、一部の生徒は短絡的な記述が多い。自分の言葉で説明をしたり、考えたことを表現することが苦手な生徒が多い。	学習プリントの記述内容や前時の課題を共有し、有効な練習方法などを考える機会を増やす。生徒に発表させる場面を設ける。
	学びに向かう力, 人間性等	運動が好きな生徒も、苦手としている生徒も意欲的に参加できている。単元に興味を示し、協力して向上しようとする気持ちがあり、基本的な授業規律は守られている。	アドバイスやポジティブな言葉を心掛ける。授業者だけでなく生徒同士での学び合いを促し、取り組みやすい雰囲気作りを努める。
技術家庭	知識及び技能	生徒の作業の効率化を考えていたが、食生活の知識・調理技能や機械の仕組み、技能の習得のための時間確保が必要である。	グループワークや振り返りカードを活用して次の授業につなげる。
	思考力, 判断力, 表現力等	バランスの取れた献立を工夫することなく立ててしまったり、ていねいな作品作りができず雑な仕上がりにってしまう。	発想をまとめるポイントや仕上がりを例示し、完成イメージをもたせる。
	学びに向かう力, 人間性等	消費社会の問題や情報社会での関心を自身の日常生活に結び付けられていない。	授業で学んだことを生活の中で役だてて、柔軟な発想と豊かな生活を送る方法を考えさせる。
英語	知識及び技能	多くの生徒が英語でのコミュニケーション活動に関心を持っている。音読やQ&Aにも積極的に取り組んでいる。また、小テストも意欲的に取り組んでいる。	音読、小テストやスピーキングテストをすることで、単語や英文のリズムや文法を覚えるように心がけ、意欲を高める工夫をする。
	思考力, 判断力, 表現力等	学習した初歩的な英語を使うことはできるが、文章にして表現するのは難しい生徒がいる。読む力は徐々に上がってきているが、自分で考えたことを話す力はまだ課題が多い。	自己表現力をつけるためスピーチを実施する。それによりライティングとスピーキング力を高め、自己表現する力をつけさせる。
	学びに向かう力, 人間性等	多くの生徒が英語でのコミュニケーション活動に関心を持っている。音読やQ&Aにも積極的に取り組んでいる。また、小テストも意欲的に取り組んでいる。	毎回の授業で、Q&Aや語彙活動を積極的に取り入れ、コミュニケーションをとる力をもっと高める。
道徳	知識及び技能	他者の気持ちを読み取ったり、よりよい生活のために豊かな人間性を身につけるために、生徒同士が話し合ったりすることで、お互いの考えを理解し、尊重できるようにしていくことが課題である。	よりよく生きるための基盤となる道徳性を養うために、読み物資料を中心に紙芝居や視聴覚教材を取り入れ、生徒の意欲向上を図っている。
	思考力, 判断力, 表現力等	学校生活では道徳的な判断をする力は身に付いてきているが、討論や自分の考えを文章や言葉で伝える力が弱く感じる。	議論の仕方を教え、考えさせる発問ができるように、教材を工夫する。グループ活動で様々な意見に触れる機会を作るとともに、自分の考えを深められるようにする。
	学びに向かう力, 人間性等	生徒達は、よりよい生き方や理想を目指して行動しようとする姿が見られる。しかし、他者の立場にたって考えたり、集団がより良い方向に導かれるように考えようとする力をつけることが課題である。	授業の中で、よりよい生き方の自分について考えられるように、必ず自分の振り返りになる発問を入れる。また、自分の行為が他の人の役にたっているかも振り返られるようにもする。
特別活動	知識及び技能	自信をもって集団活動していくための知識やアイデアをもたせていく必要がある。集団活動を高めていくためにはどのような目標設定や取り組みが必要か、学級活動や生徒会活動、学年集会等での振り返りを通して整理していく必要がある。	何事にも役割と責任をもって行動させていけるよう、意図的に環境設定していく。当事者意識をもって考えさせ、活動を認め、賞賛する機会を設けていく。
	思考力, 判断力, 表現力等	お互いに協力したり注意し合える関係性をさらに作っていく必要がある。より良い人間関係づくりのための話し合い活動や交流の機会が必要である。集団力の向上と諸問題の解決に向け、一人一人が意見を出し合い、お互いを認め合えるような環境づくりをしていきたい。	エンカウンターやソーシャルスキルトレーニングを重視していく。自己評価と相互評価を定期的にもたせる。様々な場面で個別のアドバイスを与えていく。
	学びに向かう力, 人間性等	全体的に明るく素直な集団だが、自尊感情が低い生徒も多い。何か問題が起きたときに報告できる力もあるが、集団生活を皆で高めようとする意識はまだ不足している。学校行事や委員会・係活動を通し、学級・学年・学校への所属意識や責任感を昨年度以上に高めさせたい。	QUテストの結果を校内研修を通して学年全体で共有するとともに、生徒同士で協力して活動する機会を増やし、人間性を磨いていく。
総合的な学習の時間	知識及び技能	上級学校訪問を通して、卒業後の進路に対する知識や意識を高めさせる。職場体験学習では、勤労意識を持たせて仕事の技能を学ばせる。	自分に関わる将来につながる学習だという過程がわかるような取り組みをさせる。
	思考力, 判断力, 表現力等	図書室を利用しながらいろいろな情報を収集し、豊かな発想や表現力を身につけ発表する力を身につけさせる。	発表活動にも力を入れ、時間確保と新聞のまとめ方の指導に力をいれたい。
	学びに向かう力, 人間性等	職場体験は意欲的に取り組めた生徒が多かった。振り返りの学習に力を入れていく。上級学校訪問は参加できていない生徒もみられた。	様々な活動が将来に関わっていることを理解させ、達成感へと結びつくよう、指導方法を工夫していく必要がある。